

[抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団 平成 25 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名 : 特別支援学校における TEACCH プログラムを応用したオーダーメイドの 口腔清掃法指導システムの構築</p>
<p>2. 申請者名 : 一般社団法人 広島市歯科医師会 会長 土江健也</p>
<p>3. 実施組織 : 一般社団法人 広島市歯科医師会 広島大学病院 障害者歯科</p>
<p>4. 事業の概要 :</p> <p>特別支援学校の児童・生徒たちの口腔内状況の改善を主目的とする。また、保護者及び支援学校職員の口腔健康に対する意識、口腔清掃技能の向上および障害の方に個々に合った TEACCH プログラムを応用したオーダーメイドの口腔清掃法を構築する。本事業に参加する歯科医師会の歯科医師の障害者歯科治療に対する知識と技能の向上も期待される。</p> <p>TEACCH プログラムとは Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped Children の略であり、早期から成人期に至るまでの知的障害あるいは自閉症の包括的治療教育プログラムのことである。</p>
<p>5. 事業の内容 :</p> <p>広島市立広島特別支援学校にて歯科検診を実施し、その結果を統計学的に解析する。また、保護者や学校職員に対し口腔保健に対する意識調査をアンケート形式で行い、ワークショップ (年 3 回) を開催して具体的な問題点の抽出およびその改善点を検討する。</p> <p>1) 平成 25 年 4 月 25 日 歯科検診実施 (於: 広島市立広島特別支援学校) (<u>添付資料 1</u> 参考)</p> <p>2) 平成 25 年 6 月 10 日 広島市立広島特別支援学校訪問 (於: 広島市立広島特別支援学校) 内容: ①保護者や学校職員に対し、「口腔保健に対する意識調査 (1 回目)」を行うためアンケート実施 (<u>添付資料 2</u> 参考) ②広島市立広島特別支援学校長による学校の施設案内。洗面スペースなどの写真撮影。 (<u>添付資料 3</u> 参考)</p> <p>3) 平成 25 年 6 月 19 日 第 1 回 ワークショップ開催 (於: 広島大学病院障害者歯科) 内容: 本事業の概要について検討 (事業名、実施組織、事業の目的及び期待される成果、事業内容、予算について)</p>

4) 平成 25 年 10 月 15 日

第 1 回 公益財団法人 8020 推進財団 歯科保健活動事業委員会 (於: 広島県歯科医師会館)

内容: ①本事業内容の概要を協議、決定

②広島大学病院障害者歯科 岡田 貢 教授による「障害者歯科と TEECH プログラム」についての講義

5) 平成 25 年 12 月 13 日

第 2 回 ワークショップ開催 (於: 広島大学病院障害者歯科)

内容: ①本事業の対象となる学童・生徒の選考基準、人数などについて協議

②広島市立広島特別支援学校職員による広島大学病院障害者歯科の施設見学

6) 平成 25 年 12 月 18 日

第 3 回 ワークショップ開催 (於: 広島大学病院障害者歯科)

内容: ①本事業に参加可能な歯科医師、歯科衛生士の招集方法や講習会の概要について検討

②「口腔保健に対する意識調査 (2 回目)」のアンケートの質問内容について協議

7) 平成 26 年 1 月 6 日

広島市立広島特別支援学校職員を対象とした講習会開催 (於: 広島市立広島特別支援学校)

内容: ①広島大学病院障害者歯科 岡田 貢 教授による講演会

②職員に対し「口腔保健に対する意識調査 (2 回目)」を行うためアンケート実施 (現在集計中)

8) 平成 26 年 1 月 31 日

広島市立広島特別支援学校保護者を対象とした講習会開催 (於: 広島市立広島特別支援学校)

内容: ①広島大学病院障害者歯科 尾田 友紀 助教による講演会

②保護者に対し「口腔保健に対する意識調査 (2 回目)」を行うためアンケート実施 (現在集計中)

9) 平成 26 年 3 月 7 日

第 2 回 公益財団法人 8020 推進財団 歯科保健活動事業委員会 (於: 広島県歯科医師会館)

内容: ①1 年目の事業内容の総括 (アンケート分析結果報告をなど)

②2 年目以降の事業内容の検討 (2 年度以降の保護者と職員にする口腔保健指導に参加予定の歯科医師や歯科衛生士に対する講習会の日時決定など)

6. 実施後の評価（今後の課題）：

本事業は以下のように3カ年で計画している。

- 1年目：広島市立広島特別支援学校にて歯科検診を実施し、その結果を統計学的に解析する。また、保護者や学校職員に対し口腔保健に対する意識調査をアンケート形式で行い、ワークショップ（年2回）を開催して具体的な問題点の抽出およびその改善点を検討する。
- 2年目：保護者と職員に対し口腔保健指導を行う（年に4回）。視覚支援が有効と思われる児童・生徒に対しては具体的な視覚支援法を検討する。また、保健指導の希望のあった保護者に対しては個別にオーダーメイドの口腔清掃を指導する。
- 3年目：再度、歯科検診、アンケートを実施し、1年目の結果と比較検討する。また、研究成果を学会で発表を行う。

本年度は保護者と職員に対し2回アンケート調査と3回のワークショップを開催した。このことにより2年目に向けて具体的な需要と見通しがたってきた。これは特別支援学校の児童・生徒たちの口腔内状況を把握する上で大変有意義であると思われる。

平成26年5月初旬には本事業に参加予定の歯科医師、歯科衛生士を対象とした障害者歯科 岡田教授による研修会の開催が予定されており、現在研修会に参加する歯科医師、歯科衛生士を募集しているところである。

今後の課題としては、次の様なものがあげられる。

- ①教職員と保護者、歯科医師、歯科衛生士の全てが事業に参加することが求められるため、日程の調整が難しい。
- ②特別支援学校の学童・生徒全員に本事業を行うことは時間的にも人員的にも困難で、対象から外れた生徒たちに対するケアをどうするか。（現在は約20名程度で想定している）

今後も特別支援学校の児童・生徒たちの口腔内状況の改善を目指して、2年目も計画通りに事業を進めていく予定である。